

公 開
資料 3

第 3 3 2 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和 4 年 1 0 月 2 4 日

日 本 学 術 会 議

公開審議事項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等
Ⅲ 公開審議事項					
1. 規則関係					
提案 1	「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」の一部を改正すること	国際委員会委員長	3	「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」について、代表派遣応募に必要な会議推薦書及び会議調書の様式を変更する必要があるため。 ※国際委員会10月21日承認	高村副会長 —
2. 委員会関係					
提案 2	(機能別委員会) 国際委員会 (1)運営要綱の一部改正 (小分科会の設置 3 件) (2)分科会等委員の決定 (新規 4 件)	国際委員会委員長	15	(1)国際委員会に小分科会を設置することに伴い、運営要綱を一部改正する必要があるため。 (2)国際委員会における分科会等委員を決定する必要があるため。 ※国際委員会10月21日承認	高村副会長 国際委員会運営要綱第2、内規18条
提案 3	(分野別委員会) (1)委員会及び分科会委員の決定 (追加 3 件) (2)小委員会委員の決定 (追加 1 件)	(1)第二部長、第三部長 (2)第三部長	21	(1)分野別委員会における委員及び分科会委員を決定する必要があるため。 (2)分野別委員会における小委員会委員を決定する必要があるため。	第二部長、第三部長 内規12条 1 項、18条
提案 4	(課題別委員会) 人口縮小社会における問題解決のための検討委員会委員の決定 (追加 1 件)	会長	23	人口縮小社会における問題解決のための検討委員会委員の追加を決定する必要があるため。	望月副会長 内規12条 2 項
3. その他のシンポジウム等					
提案 5	公開シンポジウム 「持続的な食料保障に向けた植物保護の新技术」の開催について	農学委員会委員長	25	主催：日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会 日時：令和 4 年12月 3 日 (土) 13:00 ～ 16:50 場所：オンライン開催 ※第二部承認	— 内規別表第 2
提案 6	公開シンポジウム 「第12回計算力学シンポジウム」の開催について	総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長	27	主催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会 日時：令和 4 年12月 5 日 (月) 10:00～ 17:35 場所：日本学術会議講堂 (ハイブリッド開催) 他会議室 1 室 ※第三部承認	— 内規別表第 2
提案 7	公開シンポジウム 「持続的な畜産経営を目指したスマート技術と今後の展望」の開催について	食料科学委員会委員長	31	主催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門 日時：令和 4 年12月11日 (日) 13:00 ～ 17:30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	— 内規別表第 2

提案8	公開シンポジウム 「あらためて高大接続 を考える：有識者との 議論を通じて」の開催 について	心理学・教育学 委員会委員長	35	主催：日本学術会議心理学・教育学委員 会高大接続を考える分科会 日時：令和4年12月12日（月）18:00 ～ 20:00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	－	内規別表第 2
提案9	公開シンポジウム 「コロナ禍を踏まえた 新たな国土形成計画の 課題」の開催について	地域研究委員会 委員長	37	主催：日本学術会議地域研究委員会人 文・経済地理学分科会 日時：令和4年12月23日（金）13:00 ～ 16:00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	－	内規別表第 2
提案10	公開シンポジウム 「ダイバーシティ推進 と日本社会の＜不平等 ＞」の開催について	社会学委員会委 員長	39	主催：日本学術会議社会学委員会 日時：令和5年1月28日（土）13:00～ 16:00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	－	内規別表第 2

4．後援

提案11	国内会議の後援をする こと	会長	43	以下について、後援の申請があり、関係 する部、委員会に審議付託したところ、 適当である旨の回答があったので、後援 することとしたい。 ①第3回生科連シンポジウム「生態系と 生物を活かしたカーボンニュートラル」 ②2022年度衝撃波シンポジウム ③シンポジウム「近未来の東洋学・アジ ア研究－東洋学・アジア研究の新潮流 －」	会長	後援名義使 用承認基準 3（2）ウ
------	------------------	----	----	--	----	-------------------------

7.その他

件名		資料(頁)
参考	今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、11月28日（月）13:30～開催予定。	45

日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後	改 正 前
（代表派遣会議調書の提出） 第16条 会長は、前条の規定に該当する会議等について、当該会議等の開催が予定される会計年度（以下「会議開催年度」という。）の前年度の11月中に、国内委員会及びその他の委員会の委員長（以下「関係委員長」という。）に対し、<u>様式第3に定める代表派遣会議調書（以下「会議調書」という。）</u>の提出を依頼するものとする。 2 関係委員長は、前項の依頼があったときは、会議開催年度の前年度の1月上旬までに、<u>会議調書</u>を提出しなければならない。 （代表派遣実施計画案の作成） 第17条 会長は、前条第2項の規定により<u>会議調書</u>の提出があったときは、次の各号に掲げる区分に基づき、代表派遣実施計画（以下「派遣実施計画」という。）の案の策定を国際委員会に依頼するものとする。 （略） 3 国際委員会は、第1項の依頼があったときは、次の各号に掲げる区分に基づき、各区分の代表派遣に係る旅費の配分額を検討しつつ、それぞれ<u>様式第4</u>に定める派遣実施計画の案を作成し、会議開催年度の前年度の2月中に会長に提出しなければならない。	（代表派遣会議推薦書等の提出） 第16条 会長は、前条の規定に該当する会議等について、当該会議等の開催が予定される会計年度（以下「会議開催年度」という。）の前年度の11月中に、国内委員会及びその他の委員会の委員長（以下「関係委員長」という。）に対し、<u>様式第3に定める代表派遣会議推薦書（以下「会議推薦書」という。）及び様式第4に定める代表派遣会議調書（以下「会議調書」という。）</u>の提出を依頼するものとする。 2 関係委員長は、前項の依頼があったときは、会議開催年度の前年度の1月上旬までに、<u>会議推薦書及び会議調書</u>を提出しなければならない。 （代表派遣実施計画案の作成） 第17条 会長は、前条第2項の規定により<u>会議推薦書及び会議調書</u>の提出があったときは、次の各号に掲げる区分に基づき、代表派遣実施計画（以下「派遣実施計画」という。）の案の策定を国際委員会に依頼するものとする。 （同左） 3 国際委員会は、第1項の依頼があったときは、次の各号に掲げる区分に基づき、各区分の代表派遣に係る旅費の配分額を検討しつつ、それぞれ<u>様式第5</u>に定める派遣実施計画の案を作成し、会議開催年度の前年度の2月中に会長に提出しなければならない。

(略)

(派遣実施計画の作成)

第18条 会長は、前条の規定により提出のあった派遣実施計画の案に基づき、様式第5に定める派遣実施計画を作成して、会議開催年度の前年度の2月中に開催される幹事会の承認を得るものとする。

(派遣者の選考)

第19条 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第6に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）もしくは日本学術会議外国人アドバイザーの中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。

(略)

(派遣者の報告)

第25条

(略)

3 派遣者は、代表派遣会議から、帰国後1か月以内に、当該会議の関係資料を付して、様式第7に定める代表派遣会議出席報告書を会長に提出しなければならない。

(同左)

(派遣実施計画の作成)

第18条 会長は、前条の規定により提出のあった派遣実施計画の案に基づき、様式第6に定める派遣実施計画を作成して、会議開催年度の前年度の2月中に開催される幹事会の承認を得るものとする。

(派遣者の選考)

第19条 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第7に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）もしくは日本学術会議外国人アドバイザーの中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。

(同左)

(派遣者の報告)

第25条

(同左)

3 派遣者は、代表派遣会議から、帰国後1か月以内に、当該会議の関係資料を付して、様式第8に定める代表派遣会議出席報告書を会長に提出しなければならない。

(略) (申請) 第32条 前条第1項第1号に定める国際会議に対応する学術研究団体又はこれに準じる団体の代表者は、当該会議の日本開催が決定したときは、<u>様式第8</u>に定める申請をもって会長に共同主催の申請を行うことができる。 (略) (後援申請期限) 第37条 国際会議を主催する学術研究団体又はこれに準ずる団体の代表者は、<u>様式第9</u>に定める申請書をもって当該会議開催予定日の3か月前までに会長に学術会議の後援の申請を行うことができる。(ただし、二国間国際会議については、4か月前までとする。) (略)	(同左) (申請) 第32条 前条第1項第1号に定める国際会議に対応する学術研究団体又はこれに準じる団体の代表者は、当該会議の日本開催が決定したときは、<u>様式第9</u>に定める申請をもって会長に共同主催の申請を行うことができる。 (同左) (後援申請期限) 第37条 国際会議を主催する学術研究団体又はこれに準ずる団体の代表者は、<u>様式第10</u>に定める申請書をもって当該会議開催予定日の3か月前までに会長に学術会議の後援の申請を行うことができる。(ただし、二国間国際会議については、4か月前までとする。) (同左)
--	--

(削る)

様式第3（第16条関係）

令和 年 月 日

日本学術会議会長 殿

委員長

氏名_____

令和 年度代表派遣会議推薦書

日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第16条の規定に基づき、下記のとおり代表派遣会議を推薦いたします。

記

順位	会議名	会期	開催地	母体機関	派遣候補者名
		/ ~ /	()		
		/ ~ /	()		
		/ ~ /	()		
		/ ~ /	()		
		/ ~ /	()		
		/ ~ /	()		
		/ ~ /	()		
		/ ~ /	()		

		/ ~ /	<u> </u> ()		
		/ ~ /	<u> </u> ()		
		/ ~ /	<u> </u> ()		

注 1 会議名は、和文で記入してください。
2 派遣候補者名は、既に予定している者があれば記入してください。

様式第3 (第16条関係)

令和 年 月 日

日本学術会議会長 殿

委員会
委員長

令和 年度代表派遣会議調書

日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第16条の規定に基づき、下記のとおり会議調書を提出いたします。

記

会議	名称	(和 文)			<u>同委員会より 複数会議に応募する場合、 当該会議の順位： 位</u>	
		(欧 文)				
	開催地	国	市	会期	年 月 日～ 年 月 日	
	開催間隔	1 定期 (年に1回)			2 不定期	
	使用語	英・仏・独・露・西 その他		出席 に 必 要 な 資格		
会議形式	総会・役員会・評議員会・シンポジウム・委員会・その他 ()					

(略)

様式第4 (第16条関係)

令和 年 月 日

日本学術会議会長 殿

委員長
氏名

令和 年度代表派遣会議調書

日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第16条の規定に基づき、下記のとおり会議調書を提出いたします。

記

会議	名称	(和 文)			
		(欧 文)			
	開催地	国	市	会期	年 月 日～ 年 月 日
	開催間隔	1 定期 (年に1回) 2 不定期			
	使用語	英・仏・独・露・西 その他		出席 に 必 要 な 資格	
会議形式		総会・役員会・評議員会・シンポジウム・委員会・その他 ()			

(同左)

<u>様式第 4</u>（第 1 7 条関係） 日本学術会議会長 殿 国際委員会委員長 氏名 _____ 令和 年度代表派遣実施計画の案 日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第 1 7 条の規定に基づき、下記のとおり代表派遣実施計画の案を提出します。 （略）	<u>様式第 5</u>（第 1 7 条関係） 日本学術会議会長 殿 国際委員会委員長 氏名 _____ 令和 年度代表派遣実施計画の案 日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第 1 7 条の規定に基づき、下記のとおり代表派遣実施計画の案を提出します。 （同左）
<u>様式第 5</u>（第 1 8 条関係） 令和 年度代表派遣実施計画 （略）	<u>様式第 6</u>（第 1 8 条関係） 令和 年度代表派遣実施計画 （同左）

様式第 6 (第 1 9 条関係) 令和 年 月 日 日本学術会議会長 殿 委員会 委員長 令和 年度代表派遣会議候補者推薦書 日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第 1 9 条第 1 項の規定に基づき、下記のとおり派遣候補者を推薦いたします。 記 (略)	様式第 7 (第 1 9 条関係) 令和 年 月 日 日本学術会議会長 殿 委員長 氏名 令和 年度代表派遣会議候補者推薦書 日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第 1 9 条第 1 項の規定に基づき、下記のとおり派遣候補者を推薦いたします。 記 (同左)
---	---

様式第 7 (第 2 5 条関係) 令和 年 月 日 日本学術会議会長 殿 報告者氏名 _____ 連絡先 住 所 勤務先 電 話 所属している分野別委員会名・分科会名 _____ 代表派遣会議出席報告書 日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第 2 5 条第 3 項の規定に基づき、下記のとおり報告いたします。 記 (略)	様式第 8 (第 2 5 条関係) 令和 年 月 日 日本学術会議会長 殿 報告者氏名 _____ 連絡先 住 所 勤務先 電 話 所属している分野別委員会名・分科会名 _____ 代表派遣会議出席報告書 日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第 2 5 条第 3 項の規定に基づき、下記のとおり報告いたします。 記 (同左)
--	---

様式第8 (第32条関係)

令和 年 月 日

日本学術会議
会長

殿

(学術研究団体名)
(代表者名)

令和 年度共同主催国際会議申請書

下記の国際会議が日本で開催されることが決定しましたので、貴会議が同国際会議を（学術研究団体名）と共同して開催されるよう申請します。

記

(略)

様式第9 (第32条関係)

令和 年 月 日

日本学術会議
会長

殿

(學術研究団体名)
(代表者名)

令和 年度共同主催国際会議申請書

下記の国際会議が日本で開催されることが決定しましたので、貴会議が同国際会議を（学術研究団体名）と共同して開催されるよう申請します。

記

(同左)

国際委員会運営要綱（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後				改 正 前			
別表 2				別表 2			
小 分 科 会	調査審議事項	構 成	備 考	小 分 科 会	調査審議事項	構 成	備 考
<u>Gサイエンス学術会議 2023「気候変動」執筆対応小分科会</u>	<u>Gサイエンス学術会議 2023 のための「気候変動と関連する危機への対応」に関する共同声明案の執筆対応に関すること</u>	<u>会員又は連携会員若干名</u>	<u>Gサイエンス学術会議 2023 対応分科会に置く。設置期間：令和4年 10 月 24 日～令和5年9月30日</u>	(新規設置)			
<u>Gサイエンス学術会議 2023「ヘルス」執筆対応小分科会</u>	<u>Gサイエンス学術会議 2023 のための「ヘルス（特に、高齢化対応）」に関する共同声明案の執筆対応に関すること</u>	<u>会員又は連携会員若干名</u>	<u>Gサイエンス学術会議 2023 対応分科会に置く。設置期間：令和4年 10 月 24 日～令和5年9月30日</u>	(新規設置)			
<u>Gサイエンス学術会議 2023「海洋」執筆対応小分科会</u>	<u>Gサイエンス学術会議 2023 のための「海洋と生物多様性」に関する共同声明案の執筆対応に関すること</u>	<u>会員又は連携会員若干名</u>	<u>Gサイエンス学術会議 2023 対応分科会に置く。設置期間：令和4年 10 月 24 日～令和5年9月30日</u>	(新規設置)			

附 則（令和 年 月 日 日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

国際委員会・Gサイエンス学術会議 2023 対応分科会小分科会の設置について

分科会等名：Gサイエンス学術会議 2023 「気候変動」執筆対応小分科会

1	所属委員会名	国際委員会
2	委員の構成	会員又は連携会員若干名
3	設置目的	本小分科会は、Gサイエンス学術会議 2023 対応分科会において決定された「気候変動と関連する危機への対応」に関する共同声明について、その執筆対応を行うことを設置目的とする。
4	審議事項	2023 年のGサイエンス学術会議のアウトプットの内の一つとなる「気候変動と関連する危機への対応」に関連するGサイエンス学術会議共同声明のドラフトの作成や調整にかかる審議に関すること。
5	設置期間	令和4年10月24日～令和5年9月30日
6	備考	2023 年のGサイエンス学術会議は日本学術会議が主催することから新規に設置するもの。

分科会等名：Gサイエンス学術会議 2023 「ヘルス」執筆対応小分科会

1	所属委員会名	国際委員会
2	委員の構成	会員又は連携会員若干名
3	設置目的	本小分科会は、Gサイエンス学術会議 2023 対応分科会において決定された「ヘルス（特に、高齢化対応）」に関する共同声明について、その執筆対応を行うことを設置目的とする。
4	審議事項	2023 年のGサイエンス学術会議のアウトプットの内の一つとなる「ヘルス（特に、高齢化対応）」に関連するGサイエンス学術会議共同声明のドラフトの作成や調整にかかる審議に関すること。
5	設置期間	令和4年10月24日～令和5年9月30日
6	備考	2023 年のGサイエンス学術会議は日本学術会議が主催することから新規に設置するもの。

分科会等名：Gサイエンス学術会議 2023「海洋」執筆対応小分科会

1	所属委員会名	国際委員会
2	委員の構成	会員又は連携会員若干名
3	設置目的	本小分科会は、Gサイエンス学術会議 2023 対応分科会において決定された「海洋と生物多様性」に関する共同声明について、その執筆対応を行うことを設置目的とする。
4	審議事項	2023 年のGサイエンス学術会議のアウトプットの内の一つとなる「海洋と生物多様性」に関連するGサイエンス学術会議共同声明のドラフトの作成や調整にかかる審議に関すること。
5	設置期間	令和4年10月24日～令和5年9月30日
6	備考	2023 年のGサイエンス学術会議は日本学術会議が主催することから新規に設置するもの。

【機能別委員会】

○分科会委員の決定（新規1件）

（国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2023 分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
高村 ゆかり	東京大学未来ビジョンセンター教授	第一部会員、 副会長
小松 浩子	日本赤十字九州国際看護大学学長	第二部会員
小池 俊雄	国立研究開発法人土木研究所水災害・リスク マネジメント国際センター（ICHARM）センタ ー長、東京大学名誉教授、政策研究大学院大 学連携教授	第三部会員
佐竹 健治	東京大学地震研究所地震火山情報センター 教授	第三部会員
米田 雅子	東京工業大学環境・社会理工学院特任教授	第三部会員
今村 文彦	東北大学災害科学国際研究所所長・教授	連携会員
寶 馨	京都大学名誉教授、京都大学防災研究所・特 任教授	連携会員
田村 圭子	新潟大学危機管理本部危機管理室教授	連携会員
林 春男	国立研究開発法人防災科学技術研究所理事 長	連携会員

【設置：第331回幹事会（令和4年9月28日）、決定後の委員数：9名】

○小分科会委員の決定（新規3件）

（Gサイエンス学術会議2023「気候変動」執筆対応小分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
小池 俊雄	国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM）センター長、東京大学名誉教授、政策研究大学院大学連携教授	第三部会員
三枝 信子	国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域領域長	第三部会員
森 章	東京大学先端科学技術研究センター教授	連携会員

【設置予定：第332回幹事会（令和4年10月24日）、決定後の委員数：4名】

（Gサイエンス学術会議2023「ヘルス」執筆対応小分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
和氣 純子	東京都立大学大学院人文科学研究科教授	第一部会員
荒井 秀典	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター理事長	第二部会員
飯島 勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構教授	連携会員
郡山 千早	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授	連携会員
山田 あすか	東京電機大学未来科学部建築学科教授	連携会員

【設置予定：第332回幹事会（令和4年10月24日）、決定後の委員数：5名】

（Gサイエンス学術会議2023「海洋」執筆対応小分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
大越 和加	東北大学大学院農学研究科教授	第二部会員
原田 尚美	東京大学大気海洋研究所国際・地域連携研究センター教授	連携会員
安田 仁奈	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	連携会員

【設置予定：第332回幹事会（令和4年10月24日）、決定後の委員数：4名】

【分野別委員会】

○委員会及び分科会委員の決定（追加 3 件）

（薬学委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
奥田 真弘	大阪大学医学部附属病院教授・薬剤部長	第二部会員

【設置：常設（細則第 10 条第 2 項）、追加決定後の委員数：13 名】

（化学委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
佐々木 園	京都工芸繊維大学繊維学系教授	第三部会員

【設置：常設（細則第 10 条第 2 項）、追加決定後の委員数：12 名】

（化学委員会化学企画分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
佐々木 園	京都工芸繊維大学繊維学系教授	第三部会員

【設置：第 302 回幹事会（令和 2 年 10 月 29 日）、追加決定後の委員数：18 名】

○小委員会委員の決定（追加 1 件）

（化学委員会化学企画分科会科学技術立国を支える化学系博士人材の育成支援小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
佐々木 園	京都工芸繊維大学繊維学系教授	第三部会員

【設置：第 322 回幹事会（令和 4 年 2 月 24 日）、追加決定後の委員数：23 名】

【課題別委員会】

○委員会委員の決定（追加 1 件）

（人口縮小社会における問題解決のための検討委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
山田 あすか	東京電機大学未来科学部建築学科教授	連携会員

【設置：第 301 回幹事会（令和 2 年 10 月 3 日）、追加決定後の委員数：20 名】

公開シンポジウム
「持続的な食料保障に向けた植物保護の新技术」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会
2. 共 催：日本植物保護科学連合
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）12月3日（土）13：00 ～ 16：50
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

農業は二酸化炭素（CO₂）を排出し、生態系へのインパクトも大きい産業であるが、世界的な人口増加や異常気象の中で食料の安定供給は一層重要な課題となっており、地球環境に配慮しながら持続的な食料生産体系を構築することが必要である。本シンポジウムでは、カーボンニュートラルに取り組みながら、作物の生産性を維持していくために貢献できる最近の技術や取組についての講演を基に、これからの植物保護について討議し、理解を深める。

9. 次 第：

13：00 開会挨拶

松本 宏（日本学術会議第二部会員、筑波大学名誉教授、日本植物保護科学連合運営委員会委員長）

13：10～13：45

『内生微生物を活用した「プロバイオティクス農業」』

秋本 千春（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門グループ長補佐）

座長：宮田 伸一（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構植物防疫研究部門

行政連携調整役)

13 : 45～14 : 20

『クオラムセンシングの制御による植物病害防除を目指して』

甲斐 建次 (大阪公立大学大学院農学研究科准教授)

座長 : 松田 一彦 (近畿大学農学部応用生命化学科教授)

14 : 20～14 : 55

『青色光の殺虫効果を利用した害虫駆除技術の開発とその展望』

堀 雅敏 (東北大学大学院農学研究科教授)

座長 : 徳田 誠 (佐賀大学農学部准教授)

14:55～15:10 休憩

15 : 10～15 : 45

『植物免疫プライミングの調節機構と活用への展望』

仲下 英雄 (福井県立大学生物資源学部教授)

座長 : 岡田 憲典 (東京大学農学生命科学研究科准教授)

15 : 45～16 : 20

『ポスト情報社会の持続的雑草管理に向けた技術的、社会的展望』

浅井 元朗 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構植物防疫研究部門グループ長補佐)

座長 : 水口 亜樹 (日本学術会議連携会員、福井県立大学生物資源学部准教授)

16 : 20～16 : 50

総合討論 司会 : 渡辺 京子 (日本学術会議連携会員、玉川大学農学部教授)

16 : 50 閉会

10. 関係部の承認の有無 : 第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無 : 無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「第 12 回計算力学シンポジウム」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会
2. 共 催：一般社団法人可視化情報学会、特定非営利活動法人 CAE 懇話会、一般社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本計算工学会、日本計算数理工学会、日本計算力学連合、一般社団法人日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合（Asian Pacific Association for Computational Mechanics, APACM）、国際計算力学連合（International Association for Computational Mechanics, IACM）
3. 後 援：公益社団法人自動車技術会
4. 日 時：令和 4 年 12 月 5 日（月）10：00 ～ 17：35
5. 場 所：日本学術会議講堂、会議室 6-A（1）
（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
（計算科学シミュレーションと工学設計分科会と計算力学小委員会の合同開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手研究者が最新の成果を披露する。日本における広い分野の計算力学研究と活用の成果をまとめて聞くことができる貴重な機会となる。また、昨今の深層学習の隆盛を念頭に、「計算力学と機械学習・深層学習の融合に関する最近の話題」と題した特別企画を開催し、第一線でご活躍中の研究者による講演と討論を行う。
9. 次 第：
総合司会：土谷 隆（政策研究大学院大学政策研究科教授）
10：00-10：10 開会の辞：
吉村 忍（日本学術会議第三部部長、東京大学副学長、大学院工学系研究科教授）

第Ⅰ部 若手研究者による講演

10：10-10：30 講演1（日本計算力学連合）

桑田 祐丞（大阪公立大学大学院工学研究科機械系専攻准教授）

「格子ボルツマン法を用いた複雑壁面に接する乱流熱流動の数値解析」

10：30-10：50 講演2（日本応用数学会）

池 祐一（東京大学大学院情報理工学系研究科附属情報理工学教育研究センター助教）

「位相的データ解析とトポロジー的損失関数の最適化」

10：50-11：10 講演3（日本計算工学会）

西尾 真由子（筑波大学システム情報系准教授）

「既存インフラ構造物のデータ同化性能解析と機械学習による効率化」

11：10-11：30 講演4（CAE 懇話会）

小塚 祐也（株式会社アシックス・スポーツ工学研究所主任研究員）

「代理モデルとアルゴリズムックデザインを用いたランニングシューズの設計と商品化」

11：30-11：50 講演5（日本機械学会計算力学部門・アジア太平洋計算力学連合）

村松 眞由（慶應義塾大学理工学部機械工学科准教授）

「先端情報技術と固体力学とを融合させる試み」

11：50-13：00 昼休み

13：00-13：20 講演6（日本計算数理工学会）

藤井 雅留太（信州大学工学部機械システム工学科准教授）

「トポロジー最適化によるロケーションカムフラージュ」

13：20-13：40 講演7（可視化情報学会）

新藤 康弘（東洋大学理工学部機械工学科准教授）

「マイクロ波温熱治療装置周辺の漏洩電界の可視化と非侵襲生体内温度分布推定」

13：40-14：00 講演8（日本シミュレーション学会）

山口 太一（福井県工業技術センター研究員）

「並列有限要素法を用いた複合材料の界面損傷進展解析」

14：00-14：10 休憩

第Ⅱ部 特別企画「計算力学と機械学習・深層学習の融合に関する最近の話題」

オーガナイザー 平野 徹（日本学術会議特任連携会員、ダイキン情報システム株式会社
シニアスキルスペシャリスト）

14：10-14：50 特別講演1

坂田 綾香（統計数理研究所数理・推論研究系准教授）

「統計的機械学習における近似計算アルゴリズムとその理論」

14 : 50-15 : 30 特別講演 2

深潟 康二 (慶應義塾大学理工学部機械工学科教授)

「流体力学と深層学習の融合：機械学習縮約モデルを用いた革新的流れ制御に向けて」

15 : 35-16 : 15 特別講演 3

橋本 幸士 (京都大学大学院理学研究科物理学・宇宙物理学専攻教授)

「学習物理学：深層学習と物理学の融合と時空解釈」

16 : 20-17 : 30 総合討論

モデレーター 平野 徹 (日本学術会議特任連携会員、ダイキン情報システム株式会社シニアスキルスペシャリスト)

パネリスト 大出 真知子 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人物質・材料研究機構構造材料研究拠点設計・創造分野計算構造材料グループ主任研究員)

第Ⅱ部特別講演者 3 名

村松 眞由 (慶應義塾大学理工学部機械工学科准教授)

17 : 30-17 : 35 閉会の辞

平野 徹 (日本学術会議特任連携会員、ダイキン情報システム株式会社シニアスキルスペシャリスト)

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「持続的な畜産経営を目指したスマート技術と今後の展望」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分会、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門
2. 共 催：公益社団法人日本畜産学会、農業施設学会、日本畜産学アカデミー
3. 後 援：全国農業協同組合連合会
4. 日 時：令和 4 年（2022 年）12 月 11 日（日）13：00 ～ 17：30
5. 場 所：オンライン開催（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門（茨城県つくば市池の台 2）より配信）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

日本の食料自給率は、約 60 年前の 1965 年ごろには 73%でありましたが、その後減少し続けており、2021 年には半分ほどの 38%となっています。これに呼応するように農業従事者数も減少し続けており、1965 年ごろに約 1,000 万人であったものが 2020 年には 136 万人にまで減っており、しかもこの少ない農業従事者の約 6 割が 65 歳以上、約 3 割が 75 歳以上の高齢者で占められており、危機的状態に至っています。地球規模で進行している食料危機への対策として、人類が直接喫食できないため未利用となりがちな植物資源である麦藁や稲藁などの粗飼料を活用して、生乳や乳製品などの高品質な食料を生産できる家畜の増殖・増産が考えられます。すなわち畜産を継続性のある産業として維持・経営していくためには、ロボット技術や IoT・AI 技術などの先端デジタル技術を駆使してパラダイムシフト的に作業の効率化や生産性の向上を実現する「スマート畜産」の研究開発と普及が欠かせず、このことは食料安全保障上の視点からも喫緊の重要な社会的課題となっています。本公開シンポジウムでは、我が国における最新のスマート畜産に焦点を絞り、最新の導入事例を紹介しながら現在研究開発中の先端技術や展望について議論し、我が国に最適化された今後のスマート畜産の具体的な将来像を考える機会にしたいと思います。

9. 次 第：

13：00 開会挨拶

三森 眞琴（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門所長）
座長：

山下 恭広（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門上級研究員、農業施設学会庶務委員会幹事、日本畜産学アカデミー会員）

13：10「国内外のスマート畜産技術の動向」

池口 厚男（宇都宮大学農学部教授、元農業施設学会会長）

13：40「スマート技術による効率的なミツバチ管理」

荻原 麻理（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門主任研究員）

14：00「AI カメラ等を用いた豚及び鶏の飼育管理技術」

小澤 真（鹿児島大学共同獣医学部准教授）

14：20「繋ぎ牛舎で利用されている搾乳システムの改良技術」

町田 一幸（オリオン機械株式会社酪農事業本部（開発）部長）

14：40「酪農場での作業効率化等に貢献するスマート統合システム」

石川 志保（酪農学園大学農食環境学群循環農学類准教授）

15:00「堆肥化ロボットを利用したスマート家畜ふん尿処理技術」

中本 武範（ARAV 株式会社マーケティング・DX 戦略統括マネージャー）

15：20 休憩

15：30 総合討論

座長：

山下 恭広（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門上級研究員、農業施設学会庶務委員会幹事、日本畜産学アカデミー会員）

コメンテーター：

- ・天羽 弘一（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業機械研究部門所長）
- ・平子 誠（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構企画戦略本部研究統括部スマート農業事業推進室）
- ・後藤 貴文（日本学術会議連携会員、鹿児島大学学術研究院農水産獣医学域農学系教授、日本畜産学アカデミー会員）
- ・吉澤 緑（日本学術会議連携会員、宇都宮大学農学部名誉教授、元公益社団法人日本畜産学会理事、日本畜産学アカデミー幹事）
- ・木村 直子（日本学術会議連携会員、山形大学農学部教授、岩手大学大学院連合農学研究科教授、日本畜産学アカデミー幹事）

17：30 閉会挨拶

眞鍋 昇（日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐・教授、東京大学名誉教授、家畜改良センター理事、中央畜産会理事、日本中央競馬会経営委員会委員、日本畜産学アカデミー事務局長）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「あらためて高大接続を考える：有識者との議論を通じて」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会高大接続を考える分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）12月12日（月）18：00 ～ 20：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

心理学・教育学委員会高大接続を考える分科会では、2020年10月より、4名の会員、13名の連携会員によって、高大接続を入学者選抜に限定せず、教育内容面や学習者の高校から大学への移行という視点を導入することにより、日本における高大接続の現状を多面的に把握することを目的として議論を続けてきており、それらをもとに、第25期が終了するまでに、意思の表出をしたいと考えている。それに先立ち、下記の有識者3名を始めとして、多方面からの出席者と議論を重ね、それを意思の表出に反映させるべく、シンポジウムを開催する。

9. 次 第：

司会：松下 佳代（日本学術会議第一部会員、京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

挨拶

18:00 開会挨拶

中村 高康（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

18:05 趣旨説明

吉田 文（日本学術会議第一部会員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

登壇者からの意見

18:30 『教育接続の観点から』

荒井 克弘（独立行政法人大学入試センター客員教授）

18:40 『科学教育の観点から』

室伏 きみ子（お茶の水女子大学前学長・名誉教授）

18:50 『高校教育の観点から』

恩田 徹（京都大学大学院教育学研究科特任教授）

19:00 総合討論

挨拶

19:50 総括・閉会挨拶

吉田 文（日本学術会議第一部会員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「コロナ禍を踏まえた新たな国土形成計画の課題」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会人文・経済地理学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：地理学連携機構（打診中）、公益社団法人日本地理学会、一般社団法人人文地理学会、経済地理学会
4. 日 時：令和4年（2022年）12月23日（金）13：00 ～ 16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
2022年7月に、「国土形成計画」（全国計画）の中間とりまとめが公表された。そこでは、「地域生活圏」、「スーパーメガリージョン」、「令和の産業再配置」が、3つの柱として取り上げられている。
本シンポジウムでは、次期国土形成計画の3本柱について、人文・経済地理学のこれまでの研究成果をもとに、それぞれの内容を検討するとともに、コロナ禍を踏まえた国土のあるべき姿に関する議論を喚起し、新たな国土形成計画のあり方を考えたい。
9. 次 第：
総合司会 近藤 章夫（日本学術会議連携会員、法政大学経済学部教授）
13：00 開会挨拶
山本 佳世子（日本学術会議連携会員、地理学連携機構理事、電気通信大学大学院情報理工学研究科教授）
13：10 「新たな国土形成計画の策定に向けて」
松家 新治（国土交通省国土政策局総合計画課課長）
13：30 「デジタル田園都市国家構想と地域生活圏」
作野 広和（島根大学教育学部教授）

- 13 : 50 「スーパーメガリージョンは地域を共振・活性化するか」
浜口 伸明（日本学術会議連携会員、神戸大学経済経営研究所教授）
- 14 : 10 「産業立地の動向と持続可能な産業再配置」
鹿嶋 洋（熊本大学大学院人文科学研究部教授）
休憩（10 分）（14 : 30～14 : 40）
- 14 : 40 「コロナ禍を踏まえた観光のあり方について」
吉田 道代（日本学術会議連携会員、和歌山大学観光学部教授）
- 総合討論
- 15 : 00 「新たな国土形成計画のあり方について」
問題提起：松原 宏（日本学術会議第一部会員、地理学連携機構代表、
福井県立大学地域経済研究所特命教授）
- 15 : 55 閉会挨拶
森本 泉（日本学術会議連携会員、明治学院大学国際学部教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：パンデミックと社会に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「ダイバーシティ推進と日本社会の＜不平等＞」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会
2. 共 催：社会学系コンソーシアム
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）1月28日（土）13：00 ～ 16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

1990年代に「多文化」「多文化共生」という言葉が流布され、地域社会や企業を中心に異なる国籍や民族の人々との協同が新しい価値観や創造性をもたらす上でも重要であるとの認識が広がりを見せた。その後、2000年代半ばから企業を中心に「多様性が創造的価値をもたらす」といった言説とともに「ダイバーシティ」が喧伝され、この言葉が各方面で使われ、具体的な施策が進んでいる。

ここでは、「ダイバーシティ推進」という意味／含意をとりあえず「ジェンダー、国籍、エスニシティ、宗教、セクシャリティの違いや、障がいの有無にかかわらず、すべての人の能力、個性、思想等が十全に尊重され、公正で平等な環境の下で社会活動が行われるための活動及び施策」と位置付けよう。こうした活動や施策がきわめて重要な社会的課題であることは言うまでもない。

しかしながら、今日の日本社会の現状をみると、「ダイバーシティ推進」が、企業、労働、教育（大学）、福祉、学会といった各分野で強調されている一方で、その動きとは相反するような事態も浮きび上っている。たとえば、セクシャリティの多様性が認知される一方で、ジェンダー間の格差に関する認識が薄れ、具体的な改善が一向に進まない状況がある。あるいは、名古屋の入管問題に端的に示されたように、「非正規移民」を生み出す出入国管理制度の問題や国籍・エスニシティの違いによる差別や排除といった深刻な事態

がある。また障がい者に対する理解が進む一方で、障がいを持つ人々を「非生産的」である
と見なし、差別する意識も根強く存在している。

「ダイバーシティ推進」とそれを拒むような動きが、それぞれの分野でいかなる形で、
どのような力関係の下で生まれているのか。そこに、社会的領域の違いを超えて、日本社
会全体に共通した思想的・社会的・制度的問題はないのか。あるいは「ダイバーシティ推
進」のための施策や活動を推進する側に「弱点」や「課題」はないのか。

本公開シンポジウムは、こうした社会学が対象にするフィールド全体にかかわる問題に
ついて、多様な分野から報告を行い、議論することを目指す。

9. 次 第：

司会 伊藤 守（早稲田大学教育・総合科学学術院教授、社会学系コンソーシア
ム理事）

有末 賢（亜細亜大学都市創造学部教授、社会学系コンソーシアム理事）

挨拶

13:00 開会の挨拶

佐藤 嘉倫（日本学術会議第一部会員、京都先端科学大学人文学部学部
長・教授、東北大学大学院文学研究科教授）

13:10 シンポジウムの趣旨説明

伊藤 守（早稲田大学教育・総合科学学術院教授、社会学系コンソーシ
アム理事）

13:15 第1報告『ダイバーシティは不平等を推進するのか、是正するのか：移
民研究の立場から』

樋口 直人（早稲田大学人間科学部教授）

13:35 第2報告『企業におけるダイバーシティを阻んできたもの：歴史的視点
から』

山田 信行（駒澤大学文学部教授）

13:55 第3報告『障がい者という／におけるダイバーシティ』

田垣 正晋（大阪公立大学現代システム科学域教授）

14:15 第4報告『ダイバーシティから見る日本のジャーナリズム』

林 香里（東京大学大学院情報学環教授）

休憩（5分）（14:35～14:40）

14:40 コメンテーターからの質問及び質疑

堅田 香緒里（法政大学社会学部准教授）

江原 由美子（東京都立大学名誉教授）

15:00 報告者からのコメント

15:20 会場からの質問

挨拶

閉会の挨拶

和氣 純子（日本学術会議第一部会員、東京都立大学大学院人文科学研究科教授）

16:00 終了

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

○国内会議の後援（3件）

以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第3回生科連シンポジウム「生態系と生物を活かしたカーボンニュートラル」

主催：生物科学学会連合

期間：令和4年12月11日（日）13:00 ～ 17:00

場所：東京大学（ハイブリッド開催）あるいはオンライン開催

参加予定者数：約300名

申請者：生物科学学会連合 代表 小林 武彦

審議付託先：第二部、第三部

審議付託結果：第二部、第三部 承認

2. 2022年度衝撃波シンポジウム

主催：一般社団法人電気学会

期間：令和5年3月8日（水）～10日（金）

場所：国立研究開発法人産業技術総合研究所つくば中央・共用講堂

参加予定者数：約250名

申請者：2022年度衝撃波シンポジウム実行委員会 委員長 久保田 士郎

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部 承認

3. シンポジウム「近未来の東洋学・アジア研究－東洋学・アジア研究の新潮流－」

主催：東洋学・アジア研究連絡協議会

期間：令和4年12月3日（土）13:30 ～ 17:30

場所：東京大学法文2号館1番大教室

参加予定者数：約70～90名

申請者：東洋学・アジア研究連絡協議会 会長 斎藤 明

審議付託先：第一部

審議付託結果：第一部 承認

○今後の予定

●幹事会

第333回幹事会	令和4年	11月28日（月）	13：30から
第334回幹事会	令和4年	12月21日（水）	13：30から
第335回幹事会	令和5年	1月26日（木）	14：30から
第336回幹事会	令和5年	2月22日（水）	14：30から
第337回幹事会	令和5年	3月23日（木）	14：30から

以降の幹事会日程は追って調整

●総会

第186回総会 日程調整中